

特集

子どもと読書 … 2

かげやままきさんインタビュー

あなたのまちの図書館めぐり

ブックカフェ奥出雲

出雲市立ひかわ図書館

益田市立図書館 …………… 4

ほしい本が見つかります。

図書館の上手な使い方。 …………… 6

これから話題の「読みメン」!! …………… 8

文化を伝え未来を創る図書館

古事記1300年 神々の国しまねから … 8

 人の縁結び
島根県立図書館報
<http://www.lib.shimane.jp>

図書館だより

2012
春夏号
2012年5月20日発行
第197号



広がれ、親子読書

子どもと読書

今、島根県が全国で注目されています。それは、学校図書館をはじめとする子どもの読書環境が着実に整えられてきているからです。リニューアルした図書館だより初号の特集は「子どもと読書」です。親子読書の楽しみや絵本作家の思いなどをお届けします。



母校・谷小学校にて。閉校後、地域の交流施設「谷笑楽校」に生まれ変わった際、かげやまさんが黒板の下に絵を描いた。



かげやま まき

「子ども読書県しまね」イメージキャラクターを描いた絵本作家かげやま

❁ 幼少時の読書体験

飯南町在住の絵本作家、かげやままきさん。この町で生まれ育ったかげやまさんの読書体験は、幼少時の家庭での読書に始まる。

「母が『こどものとも*1』を購読してくれていたの、子どもの頃から絵本は身近な存在だったんです。小学校は児童数が少なかったぶん、全校での朝読書もしやすい雰囲気でした。学校図書館が好きだったんですよ、童話も、ミステリーも、昔話もあって。この頃は読み物に夢中になりましたね」。

しかし、中学生になると、読書は小説が中心になり、徐々に絵本からは遠ざかっていった。

再び絵本と深く関わるようになったのは、25歳のとき。美術専門学校入学が契機となった。

「絵を描く生活を送る中で、昔読んだ絵本を思い出したんです。内容だけを何となく覚えていて、タイトルは何だったんだろう?と気になって…」。

飯南町に帰省した折に、母校の図書館に寄り、思い出の絵本と再会する。

「あっ、この本だ!って懐かしくて、子どもの頃に読んだ本の世界を思い出していったんです」。

❁ 再び、飯南町へ

2004年、絵本『ジーくんとバケツたんけんたい』を制作する。挿絵を描くことに集中したかったので、東京から帰省し、飯南町の実家で絵を描いた。

「絵を描いていて、ふと視線を窓の外に向けると、野鳥がやってきていたのですが、その頃はあまり野鳥に詳しくなかったから、何という鳥なのか分からなくて…。気になったので本で調べて、その鳥がメジロだということが分かったんです」。

飯南町に戻ってきてからは、山登りを始め、身近な草花や生き物に興味を持ち始めた。「野鳥から始まって、それから植物。中山間地域研究センターの図書室で、『アマガエルとくらす*2』という本を読んで、カエルにも夢中に

なったんです」。絵本『がまくちがえるのつゆくさじむしよ』には、カエルや、カエルを助けてくれるメジロも登場する。

❁ 『ジーくん』の成り立ち

『ジーくんとバケツたんけんたい』は、こぶたのジーくんとその兄弟のミニ冒険譚だ。

この絵本は、訪問先の家が断面図のように描かれているので、読者はいろいろな部屋で起きている出来事を、一度に見ることができる。

「昔から、断面図の絵が好きだったんです。父と見た映画*3の影響もあったのですが、いろいろな部屋を並行して見ることができるのが面白くて。だから、断面図がずっと続く絵本を描きたかったんです」。

Uターン後、幼少時に読んだ断面図の挿絵の絵本と、思いがけず再会を果たした。

「断面図を好んで描いている私を見ていた母が、『参考になるかと思って』

絵本で子育て (親子読書のたのしみ)

生まれて間もない赤ちゃんが、お母さんとコミュニケーションしようとする気持ちをもっていることが最近わかってきました。お母さんの問いかけに応じたり、反応を示したりしているうちに、赤ちゃんは相手と心を交わす喜びを知るようになるのです。ですから、できるだけ小さいときから語りかけ、相手をしてやるのが大切だということです。そしてその一つの方法として注目されているのが、絵本の読み聞かせです。

読み聞かせには一体どんな良さがあるのでしょうか。まず、赤ちゃんが大好きな人と体を寄せ合いながらことばの愛情を一杯に受けることができることです。赤ちゃんは安心できる場所にいることを確認します。このことは赤ちゃんにとってはとても大事なことで、生きる喜びと

併せて人を信じることのできる豊かな心が育ってきます。

2～3歳になると、子どもは日常使われていることばだけでなく、絵とともに楽しめる絵本のことばやお話のことばに触れ、何度も繰り返し聞いているうちに様々なことばを自分のものにしていきます。つまり、覚えたことばを使って考えることができるようになるのです。ことばが育つ時期の始まりです。

3歳を過ぎる頃から子ども達は自分の世界を楽しむようになります。

自由に空想し思い描く力は、それまでに楽しんだ絵やことばの経験に大きく左右されるといわれています。小学校低学年までは、絵本やお話をたっぷり味わわせたいものです。(読書普及指導員 江角宏子)



さん インタビュー

～作家が思う読書のカ～

まきさんから、絵本の魅力や読書体験、作品の制作秘話などをお聞きしました。

と絵本を持ってきてくれたのですが、それが何と、私が子どもの頃に大好きだった『ちゅうちゅう大こうしん*4』だったんです！まさか、こんな形で巡り合うとは思ってなかったので、びっくりしました。このときは本当に、母に感謝しましたね」と、かげやまさんは微笑む。

本の持つ力、絵本の魅力

幼少時から本に囲まれ、自然と本に親しんでいたかげやまさん。しかし、読書や本の世界が苦手な子もいる。そんな子どもたちが本に興味を持つのはどんなときだろうか。かげやまさんに尋ねてみた。

「子どもって、知識欲が豊富だと思いませんか。様々な体験をする中で、これって何だろう？どうしてこうなるんだろう？と、不思議に思う心は誰もが持っているはず。私が窓の外にやってくる野鳥の名前を知りたいと思ったように、興味を持つことがあれば、自ら進んで本を手にとって調べることもあると思うんです。それに、文字を追うことが苦手で、挿絵や写真から本の世界に入る子もいますし、

そういう子には絵本がおすすめですよ。

- *1『こどものとも』(月刊絵本。福音館書店)
- *2『アマガエルとくらす』(山内祥子/文、片山健/絵、福音館書店)
- *3『裏窓』(アルフレッド・ヒッチコック/監督)
- *4『ちゅうちゅう大こうしん』(マーティン・ワデル/作、フィリップ・デュバスキエ/絵、佑学社)
- *5 フライヤー…イベントやショップなどの宣伝に用いられるチラシ。

かげやままきさん プロフィール

1975年 島根県生まれ

2002年 山脇美術専門学院ビジュアルデザイン科卒業

2001年からイベント出展、手作り絵本・イラストでの展示活動を始める。

絵本作品に『ジーくんとバケツたんけんたい』(岩崎書店)

月刊誌作品に『がまぐちがえるのつゆくさじむしょ』(キンダーおはなしえほん 2001年6月号・フレール館)

現在は、親子向け演劇フライヤー*5イラスト制作や、木や身近な自然素材を使ったワークショップなど、島根を中心に活動中。



左)『ジーくんとバケツたんけんたい』(岩崎書店)
右)『がまぐちがえるのつゆくさじむしょ』キンダーおはなしえほん 2001年6月号(フレール館)

子ども読書楽しまね イメージキャラクター

(取材/大野・梶谷)

今回は3つの図書館

ブックカフェ奥出雲

「人と人とのつながりが生きている暮らし」

「タテモノヲモタナイトショカン」

飛び出してきたフレーズは、タテモノ ヲ モタナイ トショカン。何だろう？一瞬、頭の中を整理して、もう一度聞き直してみる。建物を持たない図書館。それがブックカフェ奥出雲の正体だ。

2月下旬、ブックカフェ奥出雲を主催するポケット代表の飯國さんを訪ねた。「ブックカフェに参加してくれた人が、どれだけ楽しんでくれるか。何に喜び、どんな動きをしてくれるのか。毎回、手づくりの企画で大変だけれど、そこがおもしろい。」誰もが自由に、そして楽しく。人と人をつなぐ場としてのブックカフェは、町に欠くことのできない大切なイベントとなっている。

実は、今回のブックカフェにはスペシャルゲストが招かれていた。それが島根県出身の俳優、佐野史郎さんだ。小泉八雲作品の朗読&トークに加え、佐野さん自身にも一般の参加者として、ブックカフェを楽しんでもらおうという企画だ。特別なゲストだけれど、参加者の一人。一人ひとりの参加者を同じ目線で大切にするブックカフェの「コンセプト」は徹底している。それにしても、佐野さんの心をも動かすポケットメンバーの思いは、あなどれない。

ブックカフェへ

3月25日、ブックカフェ当日。会場となったカルチャープラザ仁多は、徐々に賑わいをみせていく。その様子は学園祭さながらだ。

一箱古本市では、子ども店長たちが自慢の蔵書を持ち込み、「さあ、手にとってみて」と言わんばかりに本を並べている。大人の出店者たちも負けずに本を並べていく。バラエティに富んだコレクションが惜しげもなく披露される。2階に上がってみると仁多図書室がカフェになっていた。カウンターでは、本の貸出しと同時にパンやケーキが販売されている。図書室内のテーブルには、堂々と食事が楽しめるようテーブルクロスがかけられていた。図書館の常識から考えると、規格外の発想だ。でも、そこがいい。この日、図書室は一日中たくさんの利用者で賑わった。

今回のメイン企画ともいえる「おはなし源泉かけ流し」はどうだったか？これが、存分に楽しめた。佐野さんによる朗読&トークなどをはじめ、盛りだくさんの内容。読書もいいが、おはなしもいい。身体中におはなしが、スツとしみこんでいくのが心地よい。

【日本一の図書館をつくりたい】

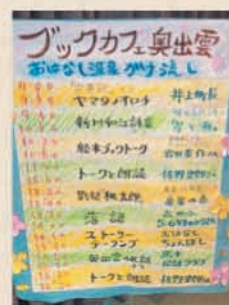
取材中、メンバーから度々聞こえてきた言葉だ。ブックカフェの最終目標はここにある。一体どんな図書館を目指すのか。その姿は、まだ漠然としているようだ。

ブックカフェとは…

本と人、人と人をつなぐ場として企画された、町民が主役の文化イベント。今回で7回目となる。

今回のブックカフェ▼

- ☆おはなし源泉かけ流し
井上町長の「ヤマタノオロチ」から落語、奥出雲の民話まで。
- ☆一箱古本市&畳カフェ
自由参加の古本市。おいしいコーヒーが飲めるカフェも併設。
- ☆仁多図書室スペシャルデー
本の貸出しとともに、パンやケーキの販売。



▲おはなし源泉かけ流しのメニュー。



▲一箱古本市での一コマ。



▲フライヤーもおしゃれ。スイーツは絶品。



▲図書室カウンターでは手作りパンやケーキが購入できる。

図書館めぐり

を紹介していきます。

出雲市立ひかわ図書館

「本を楽しむ空気」

「大切な人へ図書館をプレゼントするなら、どんな図書館がいいだろう。」何気なく考えていたら、ひかわ図書館が頭の中に浮かんだ。家族・恋人・友人。大切な人と一緒に時間を過ごすなら、こんな図書館が身近にあるとすごくいい。

「まちの図書館が欲しい。」地域に暮らす人々の思いが実を結び、ていねいに図書館づくりを進めてきた旧斐川町。平成15年10月にオープンしたひかわ図書館（当時は斐川町立図書館）も、今年で10年目を迎える。すくすくと成長してきた図書館、それとともにある暮らし。この町では図書館がしっかりと根付いている。

昨年10月から、ひかわ図書館は新出雲市の地域館の一つとして再スタートを切ることになった。個性的で充実した図書館が多い出雲市の中で、さらに魅力溢れる図書館へと成長していくのだろう。

久しぶりに訪れたひかわ図書館は、たくさんの方がお気に入りの場所でくつろいでいた。絵本を開く子どもたちの姿が目に入る。楽しそうな声も聞こえてくる。思わず微笑んでしまうのは、この図書館がもつ、優しい雰囲気のおかげかもしれない。やっぱり、この図書館には「本を楽しむ空気」がある。

斐川平野の豊かな恵みとともに、本のある暮らしも手に入れたい。そんな人は斐川に住んでみるのもいいかもしれない。きっと、すてきな暮らしがあなたを待っている。



【出雲市立ひかわ図書館】
開館時間：10時～19時
休館日：月曜日（祝日の場合は直後の平日）、
月末整理日、年末年始
貸出冊数：図書・AV資料合わせて20点まで。

益田市立図書館

「さては本の虫だな。」

4月から、益田市立図書館がシステムリニューアルし、旧益田市、旧美都町、旧匹見町の3図書館（室）のシステムが統合、ネットワーク化されている。

これに合わせて、益田市立図書館では新しい利用者カードと葉（しおり）を作成した。そのデザインがとてもユニークだ。



▲利用者カードもロゴなどが葉と同じようなデザインとなっている。

実はこの葉、学生時代に益田市立図書館を利用していた地元デザイン会社の方が制作している。いわば図書館利用者が創り出した、益田市立図書館のオリジナルデザインだ。こうした形で図書館に貢献してもらえることは、図書館員にとっては非常に嬉しいことだろう。デザインからも、本を愛する制作者の心が分かるような気がする。ぜひ、益田市立図書館へ足を運び、実物をご覧ください。もちろん、新しい利用者カードで本を借りることもお忘れなく。

【益田市立図書館】
開館時間：9時～19時（10月～5月）
9時～20時（6月～9月）
休館日：毎月末日（12月は28日）
年末年始（12月29日～1月3日）
蔵書点検期間
貸出冊数：図書・視聴覚資料合わせて10点まで。ただし視聴覚資料は最大5点まで。

（取材／三田・嘉藤）

ほしい本が見つかります。

どう調べる？

“ホタルの撮り方”

ある日の出来事。参考カウンターで、高校生に尋ねられました。「写真部の活動でホタルの撮影に行くのですが、ホタルを撮ったことがなくて、上手に撮れるか不安なんですけど…。何か参考になる本がないですか？」これを聞いて頭に浮かんだのは「ホタル」「写真」「撮影」などの言葉。これらをキーワードに、検索を開始しました。

1 どうやったら綺麗に撮れる？ ~撮影技術を調べる~

当館のOPAC*¹を使い、先ほどのキーワードで検索。ホタルの撮影技術が書かれた本を探します。しかし、残念ながらこれだけでは十分な情報が得られませんでした。

2 ホタルの撮影はなぜ難しい？ ~ホタルの特性を知る~

そもそも、ホタルの撮影はなぜ難しいのでしょうか？それを知るには、ホタルの生態や特性を知る必要があります。そこで、ホタルの生態や飼育方法について書かれた本の中に、ホタルの撮影方法が書かれていないか調べます。

★並行して、インターネット*²でも調べます。たくさんの検索結果の中から、信頼できる情報を見つけることが重要です。

探していた本は、昆虫(486)、昆虫の飼育(647)、写真技術(743)*³と、複数の分野に分かれていました。

見つかった本を借りて帰った、写真部のあなた。いつか美しいホタルの写真を見せに来てくださいね。お待ちしております！

今回の調べ物の役にたった本はこちら ▶▶▶

図書館はあなたの「知りたい」に応えます。

市町村図書館を通して貸出します

すべての県民の皆さんに県立図書館の資料を利用してもらうため、市町村の図書館などを通して資料の貸出を行っています。

- ①県立図書館に求める資料があるかどうかは、インターネットの蔵書検索(県立図書館HP)や、電話での問い合わせ(0852-22-5748)またはお近くの市町村図書館までおたずねください。
- ②借りたい資料が決まりましたら、お近くの市町村図書館(図書館未設置の4町村は中央公民館等)へお申し込みください。週1回市町村図書館等へ発送します。

図書館の上手な使い方。

～司書にきいてみよう！ 編～

『きれいな水でホタルのふやし方・写し方』



村上光正／編 パワー社 2007年

ホタル撮影の極秘テクニックを紹介。
ホタルの撮影に使用したカメラとレンズ、ピントの合わせ方、露出時間など、よりよい撮影条件について詳しく書かれています。

所蔵場所：第1資料室
647.9/キ07

『昆虫写真マニュアル』

海野和男／著 東海大学出版会 1989年

ホタルの飛ぶ光跡を風景的にとらえる撮影方法と、アップで撮影する方法があるとして、撮影方法や、撮影にあたって注意することなどの記述があります。



所蔵場所：地下書庫
743.6/ウ89

『ホタル』

高家博成／監修 海野和男／写真 大木邦彦／文
ポプラ社 2004年



ホタルを撮るために、まずはホタルの生態を知ろう！
本州、九州、四国の綺麗な川辺でみられるゲンジボタルを、その生態を中心に紹介しています。
水中で生活する幼虫についてもご紹介。

所蔵場所：子ども室
486/ド/12

ご存知ですか？

レファレンスサービス

調べものでお悩みの方は、

図書館員にお気軽にご相談ください。

私たちが、調べもののお手伝いをいたします。

"ホタルの撮り方"に登場した用語の解説

- *1 OPAC…図書館の蔵書検索システム。コンピュータを使って、所蔵の有無や所蔵場所を調べることができます。
- *2 インターネット…本に書かれている情報とインターネット上の情報、両方を調べてみるのがポイントです。
- *3 分類番号…図書館の本は、内容のテーマごとにまとめて、書架に並べています。()の中に書いた数字が分類番号です。

Information

5月の館内資料展示のテーマは

「写真を楽しむ

～あなたの側にも写真集を」
です。

展示リストはHPをご覧ください。

(担当/藤田・梶谷)

読書普及員を派遣します

保護者参観や職員・ボランティアの方の研修会等で、親子読書や読み聞かせの基本的な考え方やポイントなどお話しします。

〈お問い合わせ〉

子ども担当(0852-22-5746)

または、西部読書普及センター(0855-23-6785)

郷土資料収集のお願い

島根に関する資料(古いものも、新しいものも)を収集・保存しています。ご寄贈、情報のご提供をお願いします。



これから話題の「読みメン」!!



平成24年度、「子ども読書県しまね」を目指して、新規事業が展開されます。

■「ねえ！この本読んで。」プロジェクト

市町村の図書館に35箱の絵本セットを寄託します。保育園、幼稚園、子育て支援センター、子どもの読書ボランティアのみなさん、どうぞ活用ください。「ねえ！この本読んで。」と家に持ち帰って、せがむ子どもを育てていきましょう。



■「読みメン」プロジェクト

読みメンはイクメンの第一歩。お父さんをはじめ、大人みんなで子どもに読み聞かせをしましょう。絵本の読み聞かせは親子のきずなを深めます。子どもたちの想像力、夢を育てます。

「親子読書アドバイザー養成講座（7月 県内6ヶ所）」「体験・啓発イベント（8月5日 会場：あすてらす）」などを予定しています。



文化を伝え未来を創る図書館

—古事記編纂1300年 神々の国しまねから—

今秋、松江市において全国図書館大会島根大会が開催されます。全国の図書館関係者が一堂に会し、多岐にわたる課題の研究・協議を行います。島根県での開催は昭和50年以来、2度目となります。再び島根の地で熱い討論が繰り広げられます。

- 日時：平成24年10月25日(木)～26日(金)
- 会場：島根県民会館、くにびきメッセほか

詳しくは大会ホームページをご覧ください。

I N F O R M A T I O N

島根県立図書館 利用案内

- 開館時間／火～金 9時～19時（3月～10月）
9時～18時（11月～2月）
土・祝 9時～17時（通年）
 - 休館日／毎週月曜日（祝日の時は開館）
第1木曜、年末年始、特別整理休館
- ※詳しくは開館カレンダーをご覧ください。

〒690-0873 島根県松江市内中原町52
TEL.0852-22-5725 FAX.0852-22-5728
ホームページ <http://www.lib-shimane.jp>

人と人との縁結び 図書館だより は、本を読む愉しみを味わえるビジュアル情報誌です。

しまねの、本・人・図書館にまつわる話題をお届けします。皆さんの「本のある暮らし」を応援します。

☆この図書館だよりは、県内全ての図書館・公民館・学校に配布しています。

島根県立図書館報 図書館だより 第197号
平成24年5月20日発行
編集・発行／島根県立図書館
表紙・デザイン担当／小川

